

## 国立大学日本語教育研究協議会 報告

松岡洋子（岩手大）「地方大学発『グローバル人材育成』への日本語教育的貢献」

## 1. グローバル人材とは？

(ア) 岩手県関係者「うちには要らないんだ」全国 10%で OK

(イ) 人材流出加速？／外に出ないで地元を盛り立ててほしい

(ウ) 岩手県は所得最低レベル。現金収入がない→ 留学費用は厳しい

(エ) 地域貢献型大学で人材育成不要？ 若いうちから海外との接点は必要

→コラボレーションしてしまえ！

地域課題を、国を超えた仲間と、意見を戦わせつつ考え、解決の考え方・糸口を探る場

## 2. 2つの研修

(ア) 岩手と海外をつなぐ研修（アイスランド、スウェーデン：現地コーディネーター）

① 事前&事後研修あり、英語のみ。テーマ「エネルギーと持続可能な社会」他

② 先輩が後輩を丁寧に指導

(イ) 岩手にいながら国際的経験

① 中国・韓国・台湾・タイ・アイスランドの協定校から 10 名程度＋岩手大学の日本人学生 10～15 名程度＋岩手大学の留学生 5 名程度が参加

② 日本語も英語も使用しながら 10 日間カンヅメ。食事付で参加費 1 万円。

③ 4 学部、学年も国籍もごちゃまぜ

④ 上手くできなかった学生のリベンジ→ リピーター参加

⑤ 修羅場経験→ 就職につながっている

⑥ 地域課題「社会の持続的可能性について考える」がメインテーマ。トピックは食、エネルギー、防災など毎回さまざま。

## 3. 参加学生：即座に反応／相手の意見を聞く／論理的に考え、説明する： 力なし

(ア) 今までチャンスがなかった→ 深い接触による価値観の衝突、共感

(イ) 体験、討論による現状把握深化→ 語学力ではなく内容伝達の重要性認識

## 4. 日本語教育学に関わるもの：語学力、コミュニケーション能力と異文化理解

## 5. 日本語教育的貢献

(ア) 多様な「ことば」への対応のコツ提示

(イ) 異文化接触課題への対応スキル提示

(ウ) 論理的思考の言語化支援（因果関係、類型化、序列化など）

## 6. 意見交換

(ア) Q：学生が変わっていくプロセスをどのように把握しているか？

A：始まる前と終わった後に同じアンケートで指標化。事後のほうが下がってくる

ケースもある。全体的には上がっていく（定量評価）。先輩になってからのリピーターでは、以前より語れるようになっている（定性評価）。